



1. 園の保育目標

『 何事も、自分から進んでやる子ども 』の育成

子どもが自ら学び、伸びようとする力を大切に、「何事も、自ら進んでやる子」を育てる

- お友だちと仲良く遊ぶ子
- 生き生きと元気で丈夫な子
- 創造性の豊かな子
- 思いやりのある子
- 自分で考えて行動できる子
- 何にでも生き生きと興味を持つ子

2. 本年度、重点的に取り組むべき目標や計画

子どもの主体的な遊びの中で育まれる様々な学びや力、心身の発達を理解し、2020年度の保育者の目標は「協働しながら 明日につながる保育を展開していきましょう」とした。保育者が子どもと共に遊び、子どもの好奇心、やってみたいという気持ち、意欲が子ども主体に発せられ、伸びていくために保育者同士で日々の保育を振り返り、語り合いながら次に繋げていける様にする。

3. 具体的目標・計画

① 保育の内容について

☆クラスの取り組み・目標

- ・0歳児 遊んで食べて眠って 笑顔いっぱいな保育園生活を過ごそう
(周囲の大人との愛着関係、十分に養護の行き届いた環境のもとくつろいだ雰囲気の中で様々な欲求を満ち、生命の保持及び安定を図る)
- ・1歳児 安心して過ごせる環境の中で大好きをいっぱい見つけよう
(大人との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信を持つことができるようにする)
- ・2歳児 たくさんの遊びを 保育士や友だちと一緒に楽しもう
(生活の中で、言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養う)
- ・3歳児 様々なあそびを通して、夢中になれるものを見つけよう
自ら挑戦しようとする気持ちを育てよう
(いろいろな経験の中で感動できる感性を磨き、創造性の芽生えを培う)
- ・4歳児 身近なものに興味を持ち発見したり考えることを楽しもう
遊びを通して相手の気持ちを知り友だちとのつながりを広げよう
(生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培う。相手に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にする心を育てるとともに、自主、自立及び協調、協働の態度を養い、道徳性の芽生えを培う)
- ・5歳児 様々なことを経験し達成感を味わい自信に繋げよう
友だちと関り認め合う中で互いに協力し合い優しさや感謝の気持ちを持つよう
(人とかかわりの中で、相手に対する愛情と信頼感、そして人を大切にする思いやり

の心を育てるとともに、自主、協調、協働の態度を養い、達成する喜びと充実感により自己肯定感を育て、仲間と協働して達成する中で社会性を身につけ・豊かな心情や思考力の基礎を培う。様々な体験を通して豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う
 1 一人一人の子どもが周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。)

A → よくできた B → できた C → 一部改善が必要 D → 改善が必要

☆取り組み状況

* 乳児保育において特定の保育者との応答的な関わりをもつことで信頼関係、愛着関係を育てることを重点的に行うようにする	A
* 少人数担当制を行っている他の施設への乳児保育担当者の見学、勉強会への参加、研修会への参加を行い、本園の保育過程の見直しに繋げる	B
* 幼児保育において少人数に分かれての活動を取り入れる	A
* 職員が保育理念・保育方針の共通理解をする	B
* 保育の振り返りをしながら今後へ生かせるようにしていく	B
* 保育環境の整備・充実	C
* 給食職員と保育士等が連携して食育を推進する	A
* 小学校や地域社会との連携を行う	A
* 実習生の受入	A

☆達成及び取り組むべき課題

- ・保育において誰かが指示をし個々が動くというよりも、すべての職員が経験知を出し合って、皆で話し合い試行錯誤しながら保育することが保育の質の向上にもつながる。職員の僅かな保育感の違いが職員間の連携に影響があることが課題である。日々毎日クラス内で保育の振り返りをしながら統一できるよう職員間で協働していくことがさらに必要。
- ・異年齢児保育（縦割り保育）を行う機会を多くしたことで、育ち合う様子が見られた。
- ・子どもが主体的に遊べるよう玩具を配置することについて話し合いを重ねた。
- ・食育担当の保育士と栄養士が連携をとり、保育の中で栽培した収穫物を加工し、行事に取り入れるという年間を通じての食育活動を行うことができた。
- ・旬の食材、季節感のある献立を取り入れるようにしている。
- ・園の畑で栽培、取れた野菜を収穫しクラスでクッキングしたり、年長児に給食の食材の下ごしらえに参加などは感染症の影響で行う事が出来なかったが、別の工夫をしていきたい。
- ・近隣の小学校教諭と子ども園の教諭との合同研修会が回を重ねてきたことで、保育計画を考えるうえで方向性に役立つようになってきた。
- ・地域の方に園の行事、避難訓練参加への声掛けを積極的に行っている。非常事態が起こった時の連携を具体化するため、地域の防災担当者と話し合いを持っていきたい。
- ・実習生の受入は、将来への人材育成との認識で積極的に行っている。また、学生を迎えることで自園及び保育者自身が保育内容を客観的に振り返る良い機会にもなる
- ・実習記録への評価など担当職員の負担が増えることについて課題がある

② 健康及び安全について

☆取り組み状況・目標

健康

* 園児の健康状態、発育及び発達状態の把握	A
* 感染症対策、職員の感染症への知識の共有	A

安全

* 園庭遊具、砂場の安全点検ならびに修繕	A
* 防犯カメラ、AED、防災機器の点検整備	A
* 防災用品の購入	A
* 避難訓練の充実	B

☆達成及び取組むべき課題

- ・保護者からの健康チェック表、連絡ノートによる把握をしているが、未記入の場合があるため防災上の観点からも記入の徹底が課題である。
- ・登園時の視診による健康観察、保育中にも視診を行い具合の悪そうな場合は検温したり、注意深く様子を観察するように心がけている。
- ・毎月身長・体重を測定し、乳幼児保健票のグラフ記載は保護者が行い、園医への質問等子どもの発育について連携して見守っている。
- ・感染症の発生時の家庭への周知、予防対策への協力を速やかに行った。
- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、保育所における感染症ガイドラインに沿って予防措置を速やかに行った。引きつづき予防のための消毒や、注意喚起、職員の意識の継続、情報収集をして対策をしていくことが課題である。
- ・看護師が市内合同研修会に参加し、各園の乳幼児の保健情報を交換している。この情報を園内で共有活用して保護者や地域へさらに発信していくことが課題である。
- ・アレルギー児への給食の対応について、保護者との詳細な連携ができています。
- ・毎日園内の遊具及び設備等の点検を職員が行い、不備がある場合は都度改善をしている。
- ・専門業者に依頼し、園内の遊具点検及び砂場の細菌検査を年一回行う。
- ・警察に依頼し、不審者への対応訓練を行った。自動ドア及び送迎通用門の施錠の徹底を行う。
- ・年間の避難訓練計画に基づき、全園児と職員が訓練に参加「自分の身は自分で守る」という意識が徐々に身についている。

③ 子育て支援について

☆取り組み状況・目標

* 保護者の気持ちを受け止め、保育園と保護者の相互理解を図る	C
* 地域や関係機関と連携して子育て支援をする	B

☆達成及び取組むべき課題

- ・園での子どもの様子、保育内容を保護者に対して十分に伝えきれていないので、ICT化を進め、職員が伝える手段として、パソコンをいつでも使えるように増設した。
- ・年間行事については、子どもたちに経験して欲しい活動を続け、また保育に沿った見直しも行った。保護者の思いを聴きさらに検討していく。また、新型コロナウイルス感染症予防をしながらの保育をどのようにしていくかを職員で話し合い、感染状況を見ながら新しい方法も工夫し始めている。
- ・保護者の状況、就労への配慮が十分とは言えないところがあった。

- ・感染症予防等のストレスを抱える親子への配慮、職員のストレスについても負担軽減をすることも必要である。
- ・できるだけ多くの職員がキャリアアップ研修に参加できるようにした。
- ・一時預かり事業ではできるだけ多くの子育て家庭の支援ができるようにした。

④ 組織運営について

☆取り組み状況・目標

* 職員への情報の取り扱い方針の周知	B
* 職員への就業規則の周知	A
* 職員の資質向上	B

☆達成及び取り組むべき課題

- ・個人情報の取り扱い、守秘義務については徹底してきている。
- ・できるだけ保育の課題に即した研修に参加できた。
- ・研修で得た知識や技能を全体で共有する機会がまだまだ足りないことが課題である。

《 全体を通しての自己評価 》

- ・新しい保育の取り組みをしてきているので、そこから見えてくる課題を一つひとつ話し合いながら徐々に深め、専門性に裏付けされた若草保育園らしい新しい保育を確立させる。
- ・子どもの発達の連続性を考慮した保育(養護と教育)を常に意識し、小学校に向けて学びの基となる力を身につけさせていく。小学校教諭との合同研修により、それぞれの立場の理解が深まり、保育の方向性も確認する良い機会となるが、コロナウイルス感染症の予防から行う事が出来なかった。
- ・保育内容については、異年齢児との保育活動など一斉活動の良さも生かして、社会性を身につけるように促していきたい。
- ・子どもの主体的な遊びができる環境を工夫することにさらに力を入れたい。
- ・保健管理についてはおおむね徹底できている。引き続き保護者にも協力をお願いして感染症対策をしていきたい。嘔吐を伴う感染症については、特に保護者の協力によるところが大きく。園としてもありがたく、感謝したい。
- ・保育園でできるだけ感染症予防対策の徹底を引き続き行っていきたい。
- ・保護者アンケートに外部からの侵入に対しての不安の意見が多数あった。警察にも協力を得ながら不審者対策の充実を図った。保護者にも協力していただき玄関施錠については徹底している。
- ・職員が特別支援について学ぶ機会（専門機関からの助言）をもち保育に生かすことができた。
- ・専門機関へどのようにつなげていくか（橋渡し）が課題である。
- ・一時保育事業では「子育て」の不安をかかえる家庭への援助の必要性が高まっている。できる範囲で職員の負担にならないようにしながら、保護者の「子育て」のストレスを軽くする受入をしている。
- ・職員は自分自身の生活も大切にしながら仕事をしたいというところから、職場環境・職員の処遇面にも改善をしていくことが必要であり、ライフ・ワーク・バランスを意識し生活と仕事を両立しながら、いきいきと働き続ける職場の実現に向けていくことが事業所としての課題である。